



GOOD DESIGN AWARD 2020
GOLD AWARD



みいちゃんがお菓子作りに目覚めるまで

みいちゃんは、自宅以外の集団生活の場では、体が動かず声も出すことができません。でも、自宅や家族の前では体が動き才能を発揮することができます。みいちゃんのお母さんは、みいちゃんの将来を探し求め、小学4年生のときにスマートフォンにお菓子料理のレシピを検索できるアプリを入れて渡しました。創作活動が大好きだったみいちゃんは、早速お菓子作りに夢中になり、独学でお菓子作りを始めました。

みるみるうちに腕前を上げたみいちゃん。マルシェでお菓子販売を開催するまでになりました。みいちゃんはいつしか、「パティシエになってみんなを笑顔にしたい。いつか自分のお店を持ちたい」と夢を語るようになりました。

みいちゃんの夢「自分の店」ができるまで

Instagramにお菓子の写真を投稿するたびに、多くの「いいねー」がつき、コメントでコミュニケーションをとることができました。料理やお菓子を投稿するたびに反応してもらえる喜び、そして返事ができる自分。それは、「自分が認められた瞬間」だったのです。自信をつけたみいちゃんは、近くの県立男女共同参画センターの空きレストランを借りて不定期でスイーツカフェをオープン。口コミなどで開店と同時に40席が埋まり行列ができるまでになりました。

みいちゃんの思いは強くなって、そんな姿を見たご両親はお店を建てることを決断します。クラウドファンディングでは、全国各地から256万円の寄付が集

まり、それにご両親の資金を足して10畳ほどの小さな三角屋根のお菓子工房が去年1月にプレオープンしました。デザインは、模型で作られた案の中からみいちゃんがお気に入りのもので選ばれました。去年4月からは、養護学校に通いながら月2回開店しています。みいちゃんは丁寧にひとつひとつ時間をかけてお菓子を作っています。特にホールケーキは大きくて表現がしやすいことから得意です。



みいちゃんお得意のホールケーキ

また、みいちゃんのお菓子工房では、小学生から大人までお仕事体験を行っています。みいちゃんも小さな子どもたちには少し心をかけるようです。お菓子作りは子どもたちにとって楽しいことに加え、接客も含まれていて、良い経験となっているようです。お仕事体験をした紙屋結良さんは「工房でのお仕事体験は、実際に働くことの大変さ、楽しさを知ることができました。みいちゃんは、工房で

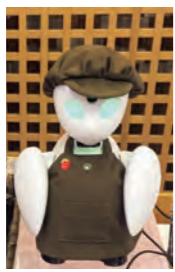


(右から)紙屋結良さん、みいちゃん、結良さんのお母さん

ひとつひとつのお菓子に真剣に取り組んでいて、とてもかっこいいです。そしてみいちゃんのお菓子を楽しそうに選んでいくお客さんの顔を見ることができて私も幸せになりました」と話しています。

みいちゃんの分身ロボット「おりちゃん」

お店には、みいちゃんの分身ロボット「おりちゃん」がいます。東京の㈱オリイ研究所が開発したOnlineというもので、肢体不自由で目や指先しか動かせない人にも使われています。みいちゃんは、遠隔でカメラの映像を見ながらタブレットを通して操作しお客さんとコミュニケーションを取っています。開発した吉藤オリイさんは、元々、この分身ロボットOnlineは私が3年半不登校の経験から開発をスタートしたものでした。外出が困難な状態での参加、また人前に出るのが辛かったストレスを軽減したいという実体験からデザインしたもので、このような形で使っていただけで嬉しく思います。ぜひ、おいしいお菓子を作って、お客さんに届けてください」とメッセージを寄せています。



みいちゃんとお兄さんとママで名付けた「おりちゃん」



すりガラス越しにお客さんの気配を感じられるようになっています

場面緘黙症とたたかう

～ちびっこパティシエみいちゃんの挑戦～

家族の前では自由に話ができるのに学校など特定の場所では声を出したり自分の意思で体が動かずことができなくなる「場面緘黙症」とたたかう「みいちゃん」こと杉之原みずきさん(13歳)が店長をつとめる「みいちゃんのお菓子工房」が上田町に開店して1年を迎えました。今回はみいちゃんの挑戦をご紹介します。

また、お店にはすりガラスでお客さんの気配を感じられるように設計がされています。みいちゃんの人に慣れていく訓練の場所にもなっています。

取り組みが評価され県下初の「グッドデザイン金賞」

このようなみいちゃんのお菓子工房のプロジェクトが評価され、先日開催された(公財)日本デザイン振興会が主催する今年度のグッドデザイン賞において滋賀県初の「グッドデザイン金賞」の栄誉に輝きました。審査委員の原田佑馬さんは、「建築だけでなく、その背景や社会課題との関わりに評価のポイントをおいています。また、『デザインが今向き合う重要な領域』を定めたものとしてフォーカス・イシューという取り組みを始めています。その中で私は『とおい居場所をつくるデザイン』をテーマにしていますが、今回のプロジェクトを高く評価しています」と語っています。

みいちゃんとママからのメッセージ

地域の皆さんに助けられながらようやくプレオープンから1年を迎えることができました。「できて当たり前」の常識の中に存在できないみいちゃんは、自立して生きていくために、皆さんの協力や、さまざまなツールの助けが必要です。分身ロボットOnlineは、みいちゃんの居場所を増やしていくためには欠かせないコミュニケーションツールとなっています。障がいを持っているほのかにも、娘の存在が勇気づけるものとなつたらうれしいです。みいちゃんは、「みんなに笑顔を届けたい」と話しています。